

平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月13日

上場会社名 豊商事株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8747 URL http://www.yutaka-shoji.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安成 政文
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 多々良 孝之 (TEL) 03-3667-5211
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 ()

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	2,544	23.8	284	—	299	939.8	669	—
27年3月期第2四半期	2,054	△2.8	11	—	28	—	22	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 668百万円(—%) 27年3月期第2四半期 49百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	81.11	—
27年3月期第2四半期	2.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	47,177	9,893	21.0
27年3月期	41,553	9,348	22.5

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 9,893百万円 27年3月期 9,348百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	13.00	13.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	—

・当社グループは、下記「3. 平成28年3月期の連結業績予想」における事由により、予想配当金については記載を控えさせていただいております。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

・当社グループは商品先物取引業及び金融商品取引業を主要な事業としており、その事業の特性上、営業収益において、商品市場、為替市場及び証券市場等の市場環境の動向により大きく影響を受ける傾向にあります。当社グループはこのような状況において、業績予想を適正かつ合理的に行うことは非常に困難であることから、業績予想の開示及び公表は、株主及び投資家の皆様の合理的な判断の形成に有用とはいえないと判断されるため、業績予想の開示を控えさせていただいております。それに代えて、決算数値が確定したと考えられる時点で四半期及び通期の業績速報値の開示を実施いたしてまいります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」等をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」等をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期2Q	8,897,472株	27年3月期	8,897,472株
28年3月期2Q	714,809株	27年3月期	679,809株
28年3月期2Q	8,252,546株	27年3月期2Q	8,218,718株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、デフレからの脱却と、持続的な社会保障制度の確立を政策課題とし、日本銀行による大胆な金融政策の導入、社会保障と税の一体改革の関連法案の成立など、具体的な施策の取組が進み、景気は緩やかな回復基調となりました。一方、世界経済は、米国での市場予測を上回る良好な経済指標や根強い米利上げ観測などが影響し、米国を中心とした景気回復が続いているものの、中国の経済成長の減速や、ギリシャ問題が解決できないEU(欧州連合)及び中東における地政学的リスク等により、先行きは不透明な状況が続いております。

証券市場においては、日経平均株価指数に代表される取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)は円安・ドル高による輸出関連企業の好調な業績を背景に堅調に推移し、6月には20,900円台を示現し、平成8年12月以来およそ18年半ぶりの高値となりました。しかし8月に突然の人民元切り下げに端を発した、中国経済の減速懸念が世界的な株式市場の急落を誘発し、日経平均株価も大きくレンジを切り下げました。その後も乱高下を繰り返し、9月末には17,000円割れとなりました。

商品相場においては、原油はサウジアラビアがイエメンへの軍事介入を開始したことから、中東での地政学的リスクが高まりNY原油が急伸、国内市場も追従する動きとなり50,000円台まで上昇しました。しかしその後はイランと欧米6カ国が核協議に合意したことによる輸出増加見通しや、世界同時株安を背景としたリスク資産からの資金流出により下落し、年初来の安値を更新しました。

金は4,600円前後で推移していましたが、5月に入ると米国の6月利上げ観測が後退したことを背景にNY金上昇し、国内金市場は円安・ドル高も支援要因となり堅調に推移、4,800円直前まで上昇しました。7月に入ると米国の年内利上げ観測が強まり軟調な推移となりましたが、世界同時株安から、リスク回避の流れが強まり、金に資金が集まりました。その後は強弱材料が交錯し4,200円から4,500円のレンジで推移しました。

穀物は主要産地である米国での前年度の豊作による需給緩和を背景に、今年度のトウモロコシ及び大豆の作付が順調に推移したことから相場は下落基調となりました。しかし6月に入ると、米国穀倉地帯で大雨が続いたことから、作付面積の減少や作柄悪化懸念が台頭し、大きく値を戻しましたが、その後は天候に恵まれ豊作が確定し、徐々に値を削る展開となりました。

為替市場においては、ドル円相場は120円を中心とした狭いレンジで推移していましたが、イエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長が、年内の利上げを示唆する発言を行ったことからドル買いが進み、6月には平成14年6月以来およそ13年ぶりの円安・ドル高となる125.87円まで上昇しました。その後は、ギリシャの債務問題を背景にリスク回避の動きが強まり、120円前半まで円高・ドル安が進行しましたが、8月に入ると中国人民銀行による突然の人民元切り下げ発表を受けて、世界的な為替市場における人民元安・ドル高の流れから、ドル円相場は再度125円台まで上昇しました。しかし、人民元切り下げによる中国経済の減速懸念はリスク回避の動きとなり8月末には116.05円まで急落しました。その後は、中国の追加金融緩和や良好な米国の経済指標が続いたことから、リスク回避の動きが和らぎ、120円を中心としたもみ合いに終始しました。

このような環境のもとで、当社グループの当第2四半期連結累計期間の商品先物取引の総売買高は981千枚(前年同期比70.6%増)及び金融商品取引等の総売買高は1,916千枚(前年同期比152.5%増)となり、受取手数料は2,375百万円(前年同期比25.4%増)、売買損益は161百万円の利益(前年同期比16.8%増)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は営業収益2,544百万円(前年同期比23.8%増)、経常利益299百万円(前年同期比939.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益669百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益22百万円)となりました。

今後の安定的な収益拡大に向け、商品先物取引、取引所為替証拠金取引「Yutaka24」及び取引所株価指数証拠金取引「ゆたかCFD」を3本柱とし、特に取引所株価指数証拠金取引「ゆたかCFD」や証券媒介取引の預り資産の増大に注力してまいります。

なお、後記「3. 四半期連結財務諸表(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に掲記したとおり、当社グループの事業セグメントは、主として商品先物取引の受託及び自己売買、並びに金融商品取引の受託及び自己売買の商品先物取引業等の単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間の資産総額は47,177百万円、負債総額は37,284百万円、純資産は9,893百万円となっております。

当第2四半期連結会計期間の資産総額47,177百万円は、前連結会計年度末41,553百万円に比べて5,624百万円増加しております。この内訳は、流動資産が6,008百万円増加し、固定資産が383百万円減少したものであり、主に「差入保証金」が4,066百万円、「現金及び預金」が1,905百万円、「その他」が1,374百万円それぞれ増加したことによるものであります。なお、「その他」の増加の主な内訳は「委託者先物差金」が1,015百万円、「未収入金」が322百万円となっております。

当第2四半期連結会計期間の負債総額37,284百万円は、前連結会計年度末32,204百万円に比べて5,079百万円増加しております。この内訳は、流動負債が5,037百万円、固定負債が40百万円それぞれ増加したものであり、主に「金融商品取引保証金」が3,864百万円、「預り証拠金」が1,358百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間の純資産9,893百万円は、前連結会計年度末9,348百万円に比べて545百万円増加しております。この内訳は、主に「株主資本」が545百万円増加したことによるものであります。

なお、当第2四半期連結会計期間の自己資本比率は21.0%（前連結会計年度末は22.5%）となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前年同四半期連結累計期間に比べて1,429百万円の増加となり、6,724百万円(前年同期は5,295百万円)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の取得は、772百万円(前年同期は88百万円の取得)となりました。これは、「差入保証金」の増加及び「その他」の増減による資金の支出等が増加したものの、「金融商品取引保証金」及び「預り証拠金」の増加による資金の収入等が増加したものであります。なお、「その他」の増減の主な内訳は「委託者先物取引差金」の増加による資金の支出となっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の取得は、885百万円(前年同期は29百万円の使用)となりました。これは、「定期預金」の預入による支出等があったものの、「有形固定資産」の売却による収入等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の取得は、148百万円(前年同期は248百万円の取得)となりました。これは、「短期借入金」の返済による支出等があったものの、短期借入による収入によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは商品先物取引業及び金融商品取引業を主要な事業としており、その事業の特性上、営業収益において、商品市場、為替市場及び証券市場等の市場環境の動向により大きく影響を受ける傾向にあります。当社グループはこのような状況において、業績予想を適正かつ合理的に行うことは非常に困難であることから、業績予想の開示及び公表は、株主及び投資家の皆様の合理的な判断の形成に有用とはいえないと判断されるため、業績予想の開示を控えさせていただいております。それに代えて、決算数値が確定したと考えられる時点で四半期及び通期の業績速報値の開示を実施いたしてまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更い
たしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定
による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方
法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更
を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、
四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会
社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載
し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売
却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方
法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び
事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点
から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額ははありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,119,245	7,025,189
委託者未収金	470,939	124,622
トレーディング商品	359,790	296,452
商品	457	8,639
保管有価証券	8,200,684	7,268,306
差入保証金	20,594,349	24,661,004
その他	498,610	1,873,507
貸倒引当金	△3,568	△8,994
流動資産合計	35,240,507	41,248,726
固定資産		
有形固定資産	3,765,623	3,290,691
無形固定資産	149,307	128,560
投資その他の資産		
その他	3,091,147	3,167,267
貸倒引当金	△693,456	△657,685
投資その他の資産合計	2,397,690	2,509,582
固定資産合計	6,312,621	5,928,834
資産合計	41,553,129	47,177,560
負債の部		
流動負債		
買掛金	-	9,330
委託者未払金	930,182	1,563,533
短期借入金	850,000	1,125,000
未払法人税等	66,967	118,767
賞与引当金	100,402	125,681
役員賞与引当金	50,000	-
預り証拠金	7,482,379	8,840,951
預り証拠金代用有価証券	8,200,684	7,268,306
金融商品取引保証金	12,420,138	16,285,109
その他	911,113	713,100
流動負債合計	31,011,867	36,049,779
固定負債		
役員退職慰労引当金	184,670	184,670
訴訟損失引当金	40,445	99,641
退職給付に係る負債	666,353	671,027
その他	151,191	127,401
固定負債合計	1,042,660	1,082,739
特別法上の準備金		
商品取引責任準備金	141,782	141,782
金融商品取引責任準備金	8,624	9,996
特別法上の準備金合計	150,407	151,779
負債合計	32,204,934	37,284,298

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,722,000	1,722,000
資本剰余金	1,104,579	1,104,579
利益剰余金	6,771,879	7,334,446
自己株式	△312,958	△329,556
株主資本合計	9,285,500	9,831,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49,569	49,822
為替換算調整勘定	48,365	43,724
退職給付に係る調整累計額	△35,241	△31,754
その他の包括利益累計額合計	62,694	61,792
純資産合計	9,348,194	9,893,262
負債純資産合計	41,553,129	47,177,560

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業収益		
受取手数料	1,893,535	2,375,012
売買損益	137,923	161,091
その他	23,407	8,149
営業収益合計	2,054,867	2,544,253
販売費及び一般管理費	2,043,849	2,259,434
営業利益	11,017	284,819
営業外収益		
受取利息	1,039	902
受取配当金	8,100	9,348
貸倒引当金戻入額	7,587	-
為替差益	-	3,302
その他	12,149	17,613
営業外収益合計	28,878	31,167
営業外費用		
支払利息	9,970	8,693
為替差損	658	-
貸倒引当金繰入額	-	6,705
その他	430	735
営業外費用合計	11,059	16,134
経常利益	28,836	299,852
特別利益		
固定資産売却益	311	560,770
特別利益合計	311	560,770
特別損失		
金融商品取引責任準備金繰入額	532	1,372
減損損失	-	74
固定資産除売却損	0	0
訴訟損失引当金繰入額	-	80,328
特別損失合計	532	81,776
税金等調整前四半期純利益	28,615	778,847
法人税等	6,109	109,451
四半期純利益	22,506	669,396
親会社株主に帰属する四半期純利益	22,506	669,396

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	22,506	669,396
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,528	252
為替換算調整勘定	12,994	△4,641
退職給付に係る調整額	896	3,487
その他の包括利益合計	27,419	△901
四半期包括利益	49,925	668,494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,925	668,494

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	28,615	778,847
減価償却費	92,008	75,149
減損損失	-	74
固定資産除売却損益(△は益)	△311	△560,770
貸倒引当金の増減額(△は減少)	6,053	△30,345
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,584	25,279
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△17,260	-
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	-	△50,000
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△40,380	4,674
受取利息及び受取配当金	△9,140	△10,250
支払利息	9,970	8,693
為替差損益(△は益)	13,572	△1,188
委託者未収金の増減額(△は増加)	△86,082	346,130
差入保証金の増減額(△は増加)	△1,937,159	△4,068,656
預り証拠金の増減額(△は減少)	1,282,089	1,360,280
金融商品取引保証金の増減額(△は減少)	1,718,690	3,864,971
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,297	△8,181
委託者未払金の増減額(△は減少)	△159,627	635,131
その他の仕入債務の増減額(△は減少)	-	9,330
その他	△802,539	△1,525,310
小計	81,617	853,858
利息及び配当金の受取額	9,159	10,236
利息の支払額	△12,097	△10,296
損害賠償金の支払額	△1,000	△21,133
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	10,905	△60,424
営業活動によるキャッシュ・フロー	88,585	772,241

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	△100,000
定期預金の払戻による収入	1,000	-
有価証券の償還による収入	22,916	-
有形固定資産の取得による支出	△6,410	△7,878
有形固定資産の売却による収入	1,370	999,116
無形固定資産の取得による支出	△51,410	△8,258
貸付金の回収による収入	2,830	2,404
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29,703	885,383
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入による収入	700,000	1,850,000
短期借入金の返済による支出	△400,000	△1,575,000
自己株式の取得による支出	△429	△16,597
配当金の支払額	△41,057	△106,411
リース債務の返済による支出	△9,959	△3,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	248,554	148,114
現金及び現金同等物に係る換算差額	75,263	△1,257
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	382,700	1,804,482
現金及び現金同等物の期首残高	4,912,448	4,920,299
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,295,148	6,724,781

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループの事業セグメントは、主として商品先物取引の受託及び自己売買、並びに金融商品取引の受託及び自己売買の商品先物取引取引業等の単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。